

終活カウンセラー 協会

よりよい人生模索

一般社団法人終活カウンセラー協会主催の第2回「終活フェスタ2014 in 東京」が24日、東京都立産業貿易センターで開かれた。パネルディスカッションでは「私の終活 ありがとうございますを伝えることありますか?」をテーマに、歌手の中尾ミエさんや浄土宗心光院の戸松義晴住職らが自らの体験を紹介し、写真。終活を通してより良い人生を送るための方法について模索した。



ディスカッションで中尾さんが「一人暮らしの人が、虚しくならない生活環境をつくれないうか」とアパルト経営をしている「などと終活体験を披露。

司会者の「いのちが絶えたとしたら誰にありがとうと伝えたいか」との質問に、同協会代表理事で「終活カウンセラー」の生みの親でもある武藤頼胡さんは「3人の子どもに伝えたい」、戸松住職と、遺言・相続に関する法律問題を多く扱う法律事務所アルシエン代表弁護士武内優宏さんは「妻に伝えたい」と話した。また中尾さんは「日頃から周りの人たちにありがとうと伝えていく。普段から言うのが大事」と強調した。

「これから過ごしたい人生を漢字一文字で」と問われ、中尾さんは「闘」と「笑」を挙げ、「闘えるだけのパワーを持ち続けないと命を生き抜くことはできない。年を取ることは自分との闘いだ」と話した。戸松住職は「楽」という字を挙げた。

涙骨抄

一粒万倍、陰に蒔いた一粒の種は必ず陽に万倍となって報われる。しかし万倍の報いを予期して蒔いた種は終に土中に朽ちる。